

# 一次脳卒中センター(PSSC) コア施設に認定

脳・脊髄・神経センター 脳卒中センター  
神経内科部長 三宅浩介医師

日本脳卒中学会は脳卒中診療を24時間365日行える施設を「一次脳卒中センター(PSC:Primary Stroke Center)」と認定しています。城山病院は2020年10月にその認定を受け、今年4月には「地域においてコアとなるPSSC施設(PSSCコア施設)」に同学会から委嘱されました。PSSCについて三宅医師に話を聞きました。



日本脳神経血管内治療学会専門医  
日本神経学会指導医  
日本内科学会認定医

## PSSCとは

脳梗塞は血栓が血管に詰まることで生じる病気です。脳梗塞が発症して間もない時期を急性期と呼び、その時期の治療はできるだけ早く血栓を取り除き、詰まった血管を再開通させることが目標です。そのため治療法は大きく分けて2通りあります。t-PAという薬剤を使って血栓を溶かすt-PA静注療法と、カテーテルを使って血栓を体外へ排出する機械的血栓回収療法です。どちらの治療法も、その状況は最近5年間で大きく変わりました。t-PAは、かつては脳梗塞発症から3時間以内の患者さんにだけしか用いることができませんでしたが、現在では発症時間に関わらずt-PA投与を検討できるようになりました。

## PSSCコア施設とは

一方、カテーテル治療は2010年頃から日本でも行われるようになり、毎年のようにカテーテルが改良され、手術の成功率は飛躍的に向上しています。カテーテル治療も、当初は発症から8時間以内の患者さんに限定されていました。が、現在はt-PAと同様、適切に選択されれば発症から24時間までの

症例に用いることができるようになりました。

このように、脳梗塞急性期治療が大きく変化するなか、2つの治療が地域格差なく、効率的に導入されるために、医療体制の構築が求められるようになりました。まずはt-PAを適切に実施できる施設を認定する事業が学会の主導のもとで行われました。これがPSSCです。

先述したようにカテーテル治療はここ5年ほどで治療成績が大きく向上しました。t-PAで治療しきれなかった詰まった血管を、30分にも満たない短時間のカテーテル操作で再開通させることも珍しくありません。従来の治療法では後遺症が残り、不自由な生活が強いられるような脳梗塞も、この治療なら2週間後に歩いて退院できるケースも少なくありません。PSSC施設の中から、カテーテル治療の実施体制調査や診療実績をもとに、カテーテル治療を常時(24時間365日)実施できる体制をもつ施設を、その地域においての核(コア)となるPSSC施設であるとし、これを「PSSCコア施設」に認定する事業も並行して行われています。大阪府下では20ほどの施設が認定されていますが、このたび当院もPSSCコア施設の認定を受けました。具体的にPSSCコア施設は、カテーテル治療を実施できない施設から、カテーテル治療を必要とする患者を常時受け入れる体制が求められます。当院ではカテーテル治療の専門医3名(指導医1名、専門医2名)とカテーテル実施医2名を中心に24時間体制でこの治療を行なっているため、常時受け入れが可能で、カテーテル治療件数(対人口比)は、この南河内地区は大阪のなかでトップクラスに入ります。以前から南河内で最も多くカテーテル治療を行なっている当院は、これに貢献していると考えています。もし、気になることがあれば、安心して専門医の診察をうけてください。